

筋ジストロフィー／筋萎縮性側索硬化症

エドガー・ケイシー療法の示す
神経筋疾患の原因と治療法

Sample

第 13 号の内容

- Encyclopedia of Healing から「筋ジストロフィー」の翻訳
- Physicians Reference Book から「筋ジストロフィー」の翻訳
- ウェットセルの原理と使用法
- リーディング原文資料（11 件）

編集・発行 NPO 法人日本エドガー・ケイシーセンター

はじめに

筋ジストロフィー（MD）と筋萎縮性側索硬化症（ALS）は身体の筋肉が徐々に萎縮し、身体の運動機能が奪われていく神経筋疾患の代表的な疾患ですが、今日の医学をもってしても、それらの原因は不明であり、有効な治療法は見出されていません。

一方、エドガー・ケイシーは筋ジストロフィー（MD）の患者 11 人に対して 13 件のリーディングを、また、筋萎縮性側索硬化症（ALS）の患者 1 人に対して 1 件のリーディングを与え、これらの難病の原因を示すと同時に、治癒に至る道筋を明らかにしました。現代医学がこれらの疾病を筋肉あるいは神経の病気であると考えているのに対し、エドガー・ケイシーは、これらの病気を**腺の機能障害**と捉えている点において、現代医学とは異なる見解を有しています。

ケイシーによれば、腺は人体各部の細胞組織に対して、その自身を正しく再生させるための命令を発する極めて重要な器官であり、その腺機能の障害が生じることで、神経細胞や筋肉細胞が正常な再生を阻まれることになり、結果として、それらの組織に異変が生じることになります。

そして腺の機能障害を引き起こしている真の原因は、わずかな例外はありますが、その人の霊的働き—カルマ—にあるとケイシーは主張しています。

ケイシーによれば、われわれの本性は永遠不滅の高貴な魂であり、その魂が自らの霊性の錬磨のために地上の肉体に入るとされます。魂は肉体を使って自己を表現することを学びますが、その自己表現のあり方があまりに物質的に偏り、自らの霊的成長が損なわれる危険性があると判断すると、その魂そのものが肉体にブレーキをかけ、その心を霊的成長に向けて軌道修正することを試みます。ケイシーによれば、肉体と魂を結びつけている器官こそが腺であり、それ故にカルマによる疾病は腺機能の障害という形を通して現れるとされます。

病気の原因がカルマにあるなどと言われると、自分の生き方を批判されたり否定されているように感じられ、不愉快に思われる方もおられるかもしれません。しかしケイシーのリーディングに従うなら、それだけのカルマを肉体上に引き受けられるということは、その魂がそれだけ高い霊性を獲得していることの現れでもあります。

「私は何の為に生きるのか」「どのような生き方をすれば自分の人生をより意義深くする

ことができるか」「どのような生き方をすれば周りの人々に希望と喜びを与えられるか」そのような視点で生きる意味をさらに深めていくなら、きっと、内なる魂が大いに躍動し、それは全身の細胞をも喜びと希望で満たすことになるはずです。

魂の躍動を実感できるようになったなら、低下していた腺機能を回復させる一連の治療を行うことになります。ここでは、ウエットセル（湿電池）というケイシーが考案した独特の電気治療装置による治療と、オイルマッサージが中心的な療法になります。

ウエットセルの原理を現代の物理化学の知識で説明することはできませんが、ケイシーのリーディングに従うなら、体内に不足している元素を波動的に身体に与えるものです。たとえば、ケイシーによれば、神経の再生には金元素が必要ですが、神経系の疾患のある人は食物から金を効率よく吸収することができません。そのために人体の外から（特に血液に対して）金の波動を与えることで、あたかも金が存在しているかのような効果を人体各部に作り出します。そのための装置がウエットセルです。この装置では未知の波動エネルギーを操作するために、その取り扱いには充分な注意が必要です。それらの諸注意を含め、ウエットセルについては本文の中でさらに詳しく説明します。またウエットセルの原理と使用法を説明した DVD も制作しましたので、実際にウエットセルを使用される方はこちらも参考になさってください。

このニュースレターでは筋ジストロフィーに関する情報が大半を含めませんが、腺機能の障害という点において筋萎縮性側索硬化症も同等の治療法が勧められていますのでここで扱うことにいたしました。

また疾病の性質上、リーディングの抜粋を並べただけでは、これらの疾病に対するリーディングのホリスティックなアプローチが見えにくくなってしまうので、筋ジストロフィーに関するリーディング1件と筋萎縮性側索硬化症に関するリーディング1件の全訳をそのまま資料として収録することにいたしました。これらに取り組まれば、これらの疾病に対する治療法の全体像がより良く理解されるものと思います。

最後になりましたが、エドガー・ケイシーの残した情報が、これらの難病治癒に取り組む方々に豊かな祝福となりますことを心より願っております。

2007 年 4 月 12 日

日本エドガー・ケイシーセンター

光田 秀

第1章

筋ジストロフィーに対するケイシー療法の概要

エドガー・ケイシー療法全書（Encyclopedia on Healing）から筋ジストロフィーに関する部分を翻訳してみました。

筋ジストロフィーは進行性の遺伝的疾患であり、筋肉の萎縮と硬直にその特徴がある。この種の退行性の疾患の多くは先天的で生後間もなく症状が現れるが、筋ジストロフィーは人生の後半に現れることもある。

エドガー・ケイシーは、筋ジストロフィーを患う7歳から51歳までの9人の依頼者に対して10件のリーディングを与えている。（訳注：最新の分類では11人の依頼者に対して13件のリーディングが存在する。）

いずれのケースに対しても、カルマによる要因か、腺のバランスが崩れていることが、（少なくとも）その疾患の原因の一部になっているとされた。一般に、リーディングによれば、退行性の疾患は、身体における化学的障害あるいは腺の障害の結果であり、それが神経のインパルスを弱めるのである。

リーディングは勇気づけるようなものではあったが、その治療によって進行を食い止め、回復させて顕著な改善をもたらすためには、長期の努力を要することを、場合によっては数年を要することをはっきりと指摘している。その間に患者は、霊的な生き方を培うべきことをアドバイスされている。少なくとも3人の依頼者は、希望を持ち続け、忍耐強くあることを助言され、カルマによる疾患の性質を理解するよう促された。

6つのケースにおいて、カルマが直接的原因として挙げられ、おそらくその他の退行性の疾患も同様であるが、筋ジストロフィーは肉体的な遺伝だけでなく、精神的、感情的な遺伝が原因となっていることが強く示唆されている。リーディングは、身体の腺中枢はカルマが直接現れる部位であると述べている。カルマは、それを患う本人だけでなく両親にとっても、魂を成長させる機会であると一般に見なされる。

出生前の状態が筋ジストロフィーの原因となっているとされたケースが2件あるが、それらもカルマに原因があり、そのうちの1つのケースは出生時の怪我がそうであった。そのようなケースでは、ある種の霊的な教訓を学ぶことが必要であるとケイシーは見なした。ある患者に対してケイシーは次のように述べている。「現在の状態を分析するに、その多くは誕生前のものであるのを見出す。しかし、それは『先祖の罪』と呼ばれるようなものでもなく、またこの実体自身の罪と呼ばれるようなものでもない。むしろ、今回の人生において、忍耐と持続力がこの実体の学ぶべきレッスンとなり得るといえる。」(3681-1)

ケイシーは、カルマの状況においては、本人ならびにその人に関わる人々の態度がきわめて重要であるとした。このことは、ケイシーが幾人かの患者に対して与えた、「治るための選択をするなら、治るだろう」というアドバイスにも現れている。ケイシーの視点では、霊において求め、他の人々に対してもっと役立とうとすることが、その（治るべき）選択をしたことになるのだ。

1.1 治療法

これらの患者に対するケイシーの肉体的な治療法は一貫している。すべてのケースにおいて、電気治療法が勧められている。これは、神経の再生を促し、萎縮プロセスを逆転させるのを助ける。2つのケースを除き、塩化金溶液を使ったウエットセルが勧められた。この塩化金と交互に使う溶液としては、硝酸根が導電性が増えられた。

また、すべての患者に対してマッサージが勧められた。これは、神経節を刺激し、弱まった筋肉の反応力を回復させる効果がある。マッサージは、一般にウエットセルによる治療を行ったすぐ後で、背骨に沿って、また下肢および他の部位に毎日行うことが勧められた。マッサージオイルとしては、オリーブオイルとピーナッツオイル、それにラノリンを加えたものが最も頻繁に推奨されたが、ココアバターも2つのケースで勧められた。

5つのケースにおいて、治療の一環として、ビタミンA、D、およびB群を豊富に含む血液・神経を造る食事が強調された。ビタミンのサプリメントも少なくとも1回示唆された。

活動力の低下した神経と腺のエネルギーを再生するために、2人の患者は、少量の塩化金と臭化ナトリウムあるいは重炭酸ナトリウムの内服が勧められた。また、2つのケースでは背骨の調整も勧められた。

1.2 事例研究

リーディングを受けた患者のうち3人がそのアドバイスを実行し、その結果に関して報告している。それによると2人が良好な結果を得、3番目の人については改善は見られな

かった。

結果を報告してきた人の中に、当時9歳の少年であった [3649] がいる。彼はリーディングを1件受けている。彼はリーディングを得る以前にメイヨークリニックで診療を受けているが、そこでは肥大性筋ジストロフィーと診断され、医者達は何の治療も与えることができなかった。

ケイシーは、その少年の状態はカルマに由来するものであると指摘した。肉体的には、誕生時の怪我によって生じた圧迫が原因とされた。

リーディングは毎日30分間ウエットセルを使用することを指示した。その後でココアバターを使った徹底したマッサージを、頭の基底部から足の裏まで行うように指示した。

この治療法をしばらく実行した後で、その少年の父親が次のように報告した。「私達は子供にその治療を行っていますが、いくらか改善しつつあります」と。

翻訳：光田 秀

Sample